

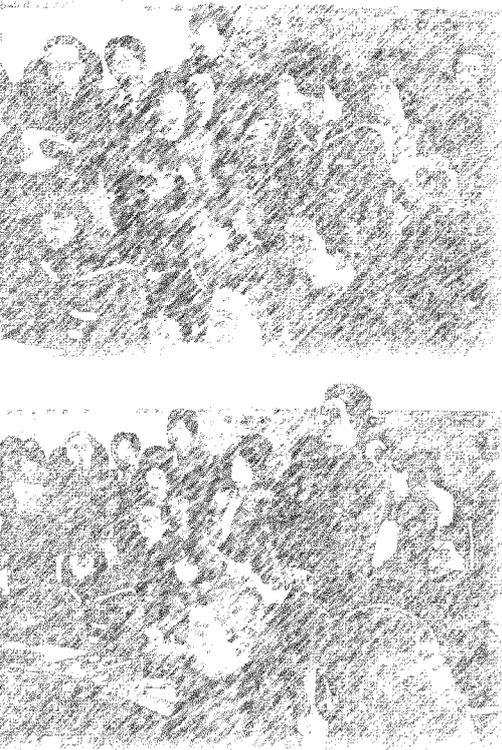
# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

写真は1991年11月19日  
徳島県中学校同和教育研究大会  
(板野中学校3年B組公開授業)

人の世に熱あれ人間に光あれ⑧ ～自分をさらけ出す本気の語り合いが生徒を変える～

1991年11月19日 徳島県中学校同和教育研究大会 (板野中学校3年B組公開授業)

多くの仲間が涙を流した郡同研 (6月25日) の授業から、生徒たちは大きく変わっていく。その語り合いは、差別・被差別の立場を超えて一人ひとりを大きく変えていった。次から次へと挙手をし、溢れる思いを語る言葉は、参観者の心に染み込んでいく。



**T・Sの語り**「この学習によりみんなに溶け込むことができるようになりました」

僕はこの学習の中から、このクラスはとてすこいなあと思いました。3年生になったとき、始めの頃はあまり友だちもいなかったのが不安だったけど、いろいろ溶け込んでいって郡同研 (6月25日) や全道研 (10月31日) ですこい授業ができてとてもうれしかったです。

**M・Mの語り**「このクラスは自分の意見を本音で語りぶつけ合う授業ができています」

今日の涙の語りのおかげで、支え合う関係がより強まり、またみんなが熱く燃え上がることができたと思います。郡同研 (6月25日) の時はまだ悲しみの涙だったと思うけど、今日の涙は違うと思うんです。うれしくて思いが込み上げる、僕と同じような思いを持っている涙だと思うし、本心をさらけ出す涙というものはたぶんうれしい時に流すからこそ、その一粒一粒の涙が一段とすばらしいものになるんだと思う。もし悲しんでいるだけだったらこの問題は絶対に解決の方向には進まないと思います。

このクラスは自分の意見を本音でぶつけ合う授業ができていますし、もし嘘で言っていることがあったとしてもそれを見抜く力がみんなにできていると思うんです。中学1年の時は、うわべだけで自分の心とかをみんなにさらけ出すことがなかったけど、この1年半みんなとこの学習を続けてきて、みんなを心から信頼する関係ができて、全道研の「ナイン」の語り合いでも学んだように絆とか団結とかの強さを知ることができたし、信頼する仲間がいるからこそ、僕も頑張っていけるんだと思います。だからこそ、みんなもまわりのみんなを信頼して頑張してほしいです。

**M・Iの語り**「私は信頼を裏切る、人を殺すような人間にはなりたくないと思う」

2年生からこの問題に取り組んで公開授業とかいろいろやってきたけど、M・M君が言ったように私は下を向いたままで発表をしないときもあって、私を信じて必死に自分を語ってくれる人に応えず下を見ていることは、その人を絶望させることになると思います。私も思うようになって、私はどんなことがあっても信頼を裏切るような人間にはなりたくないと思うようになりました。

**C・Kの語り**「私が変われたのは、友だちの支えや励ましがあり、友だちを心から信頼できたから」

私は家庭訪問のときに先生や親から初めて、自分が部落に生まれたと聞かされて思いきり泣いてしまいました。それでも郡同研 (6月25日) のときは自分の本当の気持ちをみんなにぶつけることができました。でもそのときもなぜか悲しくて泣いてしまいました。でも、今はもうそんな悲しみや苦しみとかはなくて、この授業でも涙なんか流さずに自分の本当の思いを発表できるようになりました。そんな泣いていた私を変えてくれたのは、私の友だちの支えや励ましがあったのと、友だちを心から信頼できたからです。私はその友だちに感謝しています。

**M・Sの語り**「同和問題を学習していくことは人と人をつなげていくことだなあと思う」

今までの私は部落に生まれたということは、隠さなければならないものとしか考えていなかったけど、郡同研 (6月25日) のときに私が部落に生まれたと言ったときみんなが支えてくれて、みんなが一つになれたなあと思いました。私は同和問題を学習していくことは人と人をつなげていくことだなあと思います。



本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおランチ共同代表 森口 健司